

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2009.2.21
VOL. 51

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

無事がなにより～新宿越年越冬報告～

笠井和明

実に不思議な冬であった。

「100年に一度の大恐慌」と煽られ、世間の注目は路上が一体どうなることやらと、きっと恐れられていたであろうこの冬であったが、政府の迅速な対応もあり、幸いな事に失業者が街に溢れ、路上生活者が急増すると言う構図にはならなかった。

単純さを求める国民性が21世紀に入りより顕著となり、路上生活者も固定化されてしまっている今日、失業＝ホームレスと言う明快な絵はとても世論からは支持されているようであるが、長年地道にこう言う活動をしている私たちにとってこの種の「騒ぎ」は、あまり好ましい事ではない。

いかにも「今出現したかのような可哀想な現象」として世間の耳目を集めたとしても、それは只事態をこねくり回すだけで、ホームレス問題を解決していく具体的方策は何も出されず、不景気の波の中、彼、彼女らはその底部に深く沈殿させられるだけである。

そうならないために、お前らが何とかしろとお叱りを受けそうであるが、景気の悪化と共に人々の不安はピークに達し、そして「ゆとり」を失い、ホームレスと云う状態と存在がいかにも当たり前かのように受け止められてしまうのが、景気の悪い時期のこれもまた常でもあり、これまた問題解決を遠のかせてしまう。

不況を代表するかのよういつの間にか祭り上げられてしまったおっちゃん達はまあ、大変な時代になってしまったと嘆いている。

とは云え、きっかけはともかく、この問題を真摯に受け止めようと言う人々は多少なりとも増えてはいるようである。何らかの思惑があってもなくても、いずれは路上に何らかの光をもたらせてくれるかも知れない「可能性」だけは歓迎すべき事なのであろう。単純明快ではない路上を実感するだけでもこれは大きな前進かも知れない。

新宿における越年越冬の取り組みはもう15回目である。すなわち、15年前から同じ事を繰り返し続けている街がこの新宿でもある。15年前はと云えば今と同じく「リストラ」と云う雇用調整が連日と同じよう行われたバブル崩壊期の真っ只中。ホームレスと云う聞き慣れない言葉が定着したのもこの頃である。

当時の冬は今よりも寒く、また政治も今よりも不安定で、かつ法律も未制定の頃で施策も弱く、路上で亡くなる仲間も多かった。私たちも寒さの中、路上の仲間が亡くならないようにと必死に活動をしていた。

私たちの運動のスタイルは「救済」ではなく、



野宿の当事者と支援者、ボランティアが力を合わせ、野宿の中でも最も弱い、高齢の仲間や病弱な仲間を助け合う「共済」であった。これを路上の「力」にしようと、単に年末期だけでなく、「冬」そのものと格闘をし、「仲間の命を仲間を守る」活動として越年越冬の取り組みを発展させて来た。

その過程、過程でもちろんメンバーは変わり、時代も変わり、施策も変わった。けれども冬場、路上で暮らさざるを得ない人々だけは存在し続けた。

冬場、路上で亡くなる人々は減少して来た。これだけは越年越冬を15年もやり続けて来たひとつの成果ではある。けれども冬、路上で人々が暮らさざるを得ない現実、路上死を完全に無くす事が出来ない事実とも向き合わざるを得ない。

この冬も私たちが把握しているだけで、新宿区内での路上死は確認されていないが、それは独りよがりではなく、後で行政資料を集めてみると、冬の死者が発覚したりするのも、これまた冬の現実である。「力」が及ばない事も十分にあるのである。

路上生活者が餓死をする事がないのは、この都市の豊かさではある一方、冬場、冷たいコンクリートの上に身をさらし続ける事による身体的ダメージと、何らかの疾病が蓄積される冬の寒さは、日々寿命を縮めざるを得ない人々を私たちに常に連想させてしまう。

たとえ、それが自らの意思であったとしても、その事の危険性すら発する事が出来ず、いかにもそれが当たり前かのように考える社会は、どう考えても豊かな社会の有り様ではない。

私たちがちがそう思うようになったのは、長い長い冬の活動の繰り返しの果てである。もちろん今でも、私たちが作りあげてきた「力」は有効であると考えますが、所詮その有効さとは「予防」の「予防」でしかないと言う空しさである。

何かをなし得た充足感と云うものには、路上は無

縁である。繰り返し、繰り返し、そして何度でも何度でも同じ事を言い、そして示していく事が、冬を越す私たちの活動の基本である。

今期の冬はあれもやりました、これもやりましたと自慢げに報告したとしても、それもこの長き繰り返しのたった一コマに過ぎず、それをやったからと言って、予防にはなったとしても解決にはなっていないのであるからして、何をかいわんやであるが、まあ、今年もお陰様でどうかこうにか冬を越せそうと言う事だけは、ありがたく報告しておかねばならないだろう。

不景気時に路上の仲間が相対的に増えて行くのはこれは仕方があるまい（失業者が野宿をするのではなく、抛り所なくなった失業者の一部が不幸にも野宿化するのであるが）。

事実、今年の冬は前年度比で約3割程度の増加となり、炊き出し数も3年半ぶりに実数400名代を突破している。炊き出し数は減るに越したことはないのであるが、私たちは不幸な事に実数800名代をかつて経験しており、そう慌てる事もなかった。

多くの方々のご支援を頂き、とりわけ例年不足がちな衣類、毛布関係が大量に届いた事もあり、防寒体制は十分に行き届き、また暖冬と云う事もあり、新規でこの冬野宿する人々にとっても大きな防寒上の困難もなく、その点は数が増えた分をカバーできたのではないかと考えられる。

この事態をある程度見通して秋から衣類募集プロジェクトを進めていたのであるが、予想外の反響に私たちも驚いているくらいである。

人の生活の質の基準として「衣食住」と昔から言うが、ことこの国において、路上生活者であろうが「衣」と「食」は様々な支援の中では満たされてしまうのであると、私たちがの方が実感した次第である。豊かなこの国においては、今や「衣」はファッションとなり、文化になっており、実用的な意味での「衣」は既に飽和状態になっているようである。その中で「リサイクル」と云う概念が浸透し、「捨てる」より「活用」するに時代が成熟し、必要な方々に我が家で不要な衣類を提供するのが有効なボランティアになったりするのである。民間力の力強さを思い知ったところである。

話は脱線するが、これをレスター・サラモンの「ボランティアの失敗論」的に言うなれば、私たちが失敗し続けているのは「住」の部分（一番お金がかかり、かつ国土が狭いこの国ならではの地権関係がある部分）で、その補完として政府の関与が必要だと言う事になる（かなり乱暴な解釈であるが）。



そして、その部分での進捗具合が、この問題を更に長引かせるか、それとも解消に向かわせるかの分岐点になるようにも思うのである。低家賃住宅や家賃補助、借り上げ住宅などの制度や、これまでの実験にとてつもなく私たちが興味をもっているのもそんな所からなのである。

いずれにせよこの冬の大量の衣類の寄付は物理的に仲間の防寒着になったと同時に、私たちにいろいろな事を考えさせられる出来事であった。

また、実際に現場まで足を運んでくれるボランティアの方々も医療従事者の専門職の方から学生さんまで、越年期そして今も幅広い協力が得られている。

何かをしたいが、何も出来ないと思っている人々が若い人の中には結構いるが、そんな人々はきっと「ボランティア」と言う言葉に圧倒されているのであろう。結局他人のために出来ることなんて、よほどの大金持ちでなければ、たかが知れているのであるから、そんな「上」からの立場を取らず、また自分をあえて「ボランティア」なんて思わずに、ただ現場に居るだけでそこから何かが生まれると思うのであるが、この冬現場に来られた諸氏はどう思われたであろうか。

一回炊き出しを手伝ったくらいで「ホームレス問題を理解しました」なんて言えるのは、理解したと大きな勘違いしているだけである。また、「ホームレスさんは優しい人ばかり」なんて言う感想も時たま聞くが、本当かいな、と首をひねりたくもなる。皆、結論を急ぎすぎているのである。

結局私たちは、そこでは完結し得ない、単なる「きっかけ」の場所を提供しているに過ぎず、そこから始まり、どこへ向かうか、何を求めるのかはまったくの自由であるが、思惑をもって近づいてくるプロの人々に比べれば、このような「ボランティアの卵」のような人々の方が冷や冷やす一方で、とても自然のように思えたりもするのである。

誰かのために、何かのために役立ちたいなんて言う理想論で悩み、自己形成のため悶々とするのが若者の特権である。ボランティアの全員がそんな人ばかりだと困ってしまうが、まあ、そんな人が中にいても良いんじゃないのと、思うようになっていく。

まあ、この問題の解決のために何かを見いだせたのなら幸いである。

とは云え、現状は解決のための困難さを更に増している。実態の側面から云えば、「高齢化」「長期化」が特徴として現れていた路上に、この不況の影響で再び稼働年齢層の人々が多く迷い込んで

来、これまでの官民あわせた施策を総動員したとしても今の現状にとうてい太刀打ちできそうにもない、と云う困難さが、この冬、より一層浮かび上がって来てしまったのである。

この一年で増加した路上生活者の多くはマスコミが偏って報道しているよう若年層ではなく、中高年齢者である事は、私たちの独自の調査で判明している。

非正規の製造業派遣などの失業者に対しては労働行政サイドからの施策はこの間、かなりのスピードと規模で実施されているが、より再就職が困難な中高年齢層への雇用対策はそう強くは打ち出されていない。せつかくの景気対策ではあるが、施策上の「ミスマッチ」がこれから発生するであろう。

また、製造業を中心にした減産がどこまで他の産業に波及するかによっても路上への影響の度合いは違って来る。

こう云う不安定な時期は千手観音のような多角的な支援網が必要なのであるが、残念ながら今ある施策体系は拝める程立派なものではない。

越年期特有の問題なのか否か、2月の下旬に概数や実態をいろいろと調べまわったのであるが、現状はほぼ越年期のままであり、滞留、固定化状況がこの冬の後半もそのまま続いている。

冬場の危機は過ぎせたとしても、今年はその都度、外的要因に振り回されそうな年でもある。

報告どころか、何となく暗い話しになってしまったが、それでも生き抜くしかないのが路上の性。どんな事をしてでも生き抜き、今度こそ、せめて目の前のステップに手をひっかけ、ぶらさがるところくらいにまで進みたいものである。

繰り返される歴史もまた不可思議であるが。

(了)



今回の越年はカレンダーの気まぐれで期間が長いため、パトロール班としては「一日に全部のコースを回る」という形ではなく、「全日程を通して全域をカバーする」スケジュールを組みました。

各コースの中でも、新たに野宿に至った人が集まりやすい新宿中央公園と西口地下（4号街路及び地下広場）を最重点地域として、他のエリア（西口・東口・北口・高田馬場）は間に日を置きながら回りました。新宿中央公園と高田馬場（戸山公園）は医療相談会の事前広報にも力を入れました。

越年のパトロールには、活動に初めて参加するボランティアや野宿になったばかりの仲間も多数参加しました。深夜の時間帯には、使い捨てカイロ、小型ブランケット、マフラー、手袋をセットにして配り、仲間からも好評でした。

例年通り、医療テントとの連携や、炊き出し班の仲間の心遣い、車を出してくれたドライバーの仲間の協力があつて、越年期のパトロールをやりきることができました。ありがとうございました。

越年後も、新宿にはまだ例年より多くの仲間が野宿を強いられている現状があります。今後とも引き締めて活動していきたいと思っています。



2008-2009新宿越年越冬パトロールで出会った仲間の数

日付	時間帯			
12月28日	20時～	中央公園 119人	西口 91人	東口73人
12月29日	20時～	高田馬場81人	北口30人	初台・参宮橋5人
	23時～	4号街路93	地下広場64人	
12月30日	3時～	4号街路123人	地下広場101人	東口(駅周辺)22人
	20時～	西口 69人	東口 86人	
	23時～	4号街路 85人	地下広場 63人	
	24時～	戸山スポセン99人	広域52人	
1月1日	20時～	中央公園122人	西口46人	
1月2日	20時～	東口66人	北口48人	
	23時～	4号街路90人	地下広場84人	西口地上56人
1月3日	20時～	高田馬場115人	西口62人	
	23時～	4号街路93人	地下広場68人	西口地上67人
1月4日	1時～	4号街路114人	地下広場90人	西口地上77人
		東口23人	その他駅周辺23人	

2008-2009新宿越年越冬パトロール区内概数調査

高田馬場	115	西口地下通路	114		
		西口地下広場	90		
中央公園	124	西口地上	77		
都庁下	25	ガード下	5		
		駅東口	23		
北口(新大久保方面)	48	駅南口	3		
東口(歌舞伎町方面)	86	甲州街道	15	駅周辺部で若干の重複が考えられる。	高田馬場、新宿主要地域のみで推定値
計	398	駅周辺部	327		
		全計		北口東口の推定重複	
			725	-50	675

1. 期間；2008年12月29日～2009年1月5日

2. 場所；新宿中央公園水の広場

3. 内容；中央公園水の広場で医療テントを設営し、医療職ボランティアによる昼夜2交代態勢、24時間対応活動を行った。

主な対応は、衰弱者のテント保護、重症者の救急搬送時及び医療機関緊急受診時の付き添い、医療相談、市販薬や簡易カイロの提供、福祉事務所や家族との連絡調整等である。

4. スタッフ；医師12人、歯科医師5人、看護師18人、薬剤師1人、鍼灸師及び学生18人一般4人、医療系学生8人

5. 結果；

- 1)市販薬提供延べ人数 678人
 - 2)医療機関受診22人 (前年15人)
 - 3)緊急入院 4人
 - 4)越年期間宿泊所緊急枠入所 3人
 - 5)医療相談記録人数；80人 (前年69人)
- 内訳；男性78人 (前年69人)
女性2人 (前年0人)

6. 記録平均年齢；54.7歳 (前年55.8歳)

最低年齢；21歳
最高年齢；77歳

7. 記録年齢分布；※ () は前年人数

- 20歳～39歳 11人 (2人)
40歳代18人 (13人)
50歳代17人 (30人)
60歳代23人 (17人)
70歳代10人 (5人) 不明1人

8. 医療テント保護；人数；16人
(前年12人) 以下詳細

- ①77歳男性 筋力低下・歩行困難、車椅子排泄介助
※12/30救急搬送 社会保険中央病院 入院

- ②56歳男性 嘔吐・下痢 過去にベーチェット病既往 粥等でスタッフ観察

※1/5受診、施設入所

- ③62歳男性 急性腰痛 鎮痛剤・保温により痛み軽減し保護テントを出る。

- ④72歳男性 脱水、栄養失調、歩行困難 車椅子排泄介助

※1/5新宿区で生活保護利用を確認、医療班調整の代々木病院入院

- ⑤55歳男性 骨盤骨折退院後後遺症・歩行困難
※12/31施設緊急入所 1/5生活保護申請

- ⑥67歳男性 衰弱・栄養失調 粥食と水分、保温、内服で保護

※1/1施設緊急入所 1/5生活保護申請

- ⑦72歳男性 下痢・体力低下 粥食、水分と内服で対応

※1/2施設緊急入所 1/5生活保護申請
1/14家族と連絡、沖縄に帰る

- ⑧65歳男性 喀血数回、結核再燃の疑い 個室テント対応

※1/2、1/3救急受診するが活動性結核否定、テントに戻る

※1/6国立国際医療センター受診、入院となる

- ⑨76歳女性 1/1交通事故による鎖骨・骨盤骨折で国立国際医療センター入院するが翌日自己退院し公園へ。テントで保護する。車椅子排泄介助。

※家族と連絡をとり、1/5朝、公園で待ち合わせし、その後も通院見守り。保健所と女性相談



員も関わり1/7入院となる。

- ⑩73歳男性 高血圧
※施設入所希望せず。翌日テントを出る。
- ⑪67歳男性 高血圧・歩行困難
※施設入所希望せず。翌日テントを出る。
- ⑫29歳男性 肺炎疑い 個室テント、
内服対応
※1/5受診 施設入所
- ⑬55歳男性 糖尿病による両下肢切断後（車
椅子で排泄も垂れ流しの状態で保護）
※1/3医療班の医師が各都立病院の担当医師に
電話でアポイントをとり直接状況を説明し、
都立広尾病院救急搬送、入院に至る。
- ⑭74歳男性 急性記憶障害 テント保護、
行動見守り
※大分の家族に連絡をとり、状況を説明。1/4
家族の迎えがあり帰宅
- ⑮65歳男性 意識障害、高血圧
※翌日、症状軽快、テントを出る。
- ⑯45歳男性 尿路結石疑い
※1/4医療班の医師が各病院の担当医師に直接
説明し受け入れ要請し受診となる。1/5施設
入所

9. 以上の結果から見えることと提案

1) 高齢者の増加；20歳～39歳未満の若年者が増えたことから、平均年齢は昨年より低いが、60歳～70歳が昨年よりも著しく増加し、テント内での介助度が高まった。福祉事務所から借り入れることができた2台の車椅子はフル稼働だった。高齢者の中には、家族への連絡が可能な人や、生活保護が継続していた人がいたが、それが分かるまでは要介助での保護が必要だった。医療テントという性質上、いろいろな人を保護する役目を持っていると思うが、やはりテントでの介護は本人の負担が大きい。

(提案1)

次回もの越年においても、車椅子の借り入れ、宿泊所の緊急枠の確保は必須だが、加えて要介助高齢者を直ちに受け入れることのできる場所の確保が大きな課題として残った。

(提案2)

65歳以上、70歳以上といった高齢者が路上には

多く存在している。

彼らの路上生活状態をそのままにしておく社会は、どこかがおかしいと考えるべきであり、早急に解決すべき課題として真剣に取り組まなくてはならない。そこで、都と区、そしてボランティア団体が協力し、これから年間を通して高齢ホームレスの人たちが地域で生活できるよう応援し、次回の越年の活動では、高齢のホームレスの姿を見かけることが珍しいと思えるような状態を実現することを願う。

2) 医療機関の確保について

越年期間中、8回の救急車要請をした。その内、入院は4人である。年末年始は、一般にも救急車要請が多く、受け入れ可能な医療機関も少ないため、困り果てた救急隊から同乗の医療従事者に、「どこか知っている病院はないだろうか」という打診もあった。そこで、医療テント内で救急車要請が必要と判断した場合、医療班医師が、都立病院を中心に電話をかけ、担当医に直接病状を説明するという試みをしたところ、8回の救急要請のうち2人が事前に病院の了解を得て、速やかに救急搬送することができた。

3) 感染症について

⑧の喀血の男性は、数回の喀血、発熱、結核の既往があり、個室テントで保護をした。1/2喀血、発熱のため救急車を要請した。救急隊は、すぐに結核対応可能な医療機関を探したが、受け入れ先が見つからないまま時間が過ぎた。しばらくすると、中央管理センターが白髭橋病院と交渉し、「検査のみ」という条件で受け入れが決まった。白髭橋病院に到着後、病院からは「救急車で待機」という指示があり、救急車の中で採痰し、数時間車内で待機した。その後、痰の塗抹検査結果はマイナスという結果が出たが、レントゲン撮影等、病院内での対応は何もされなかった。その間、約3時間半救急車内待機。中央管理センターから、時間がかかりすぎることので、新宿救急隊から足立救急隊に引き継がれ、向島済生会病院に再搬送しレントゲン撮影がされた。

(提案3)

結核が疑われる人に対しての受け入れ病院が見つからないために、胸部レントゲンと痰の塗抹検査が速やかに行われず、加えて必要以上に救急車を留めておくことは、社会的にも問題を感じる。

越年の医療テントは、結核ハイリスクの人が少ないため、緊急の検査が速やかに行われる準備が必要と思われる。そのためには、事前にレントゲンと痰塗抹検査が可能な医療機関を決めておくことを提案したい。

そして、医療テントに採痰容器を置き、越年中に疑わしい症例があった場合には速やかに医療機関で所定の検査を行うことができれば、結核の早期発見と対応、感染の広がり防止に役立つのではないだろうか。



2008/12/27~2009/1/4 越年期炊出し実数表

月日	12月27日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日	1月4日		
曜日	土曜	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜		
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ		
新宿昼	302	170	302	303	306	260	312	378	294	延べ人数	平均人数
参考(池袋昼)			150	190	230	200	193	195		2,627	292
新宿夜		420	330	385	320	320	340	385	564	3,064	383
参考(池袋夜)	350		230	290	381	355	318	325			

対前年度比約32%増

池袋新宿合計(昼)	170	452	493	536	460	505	573
池袋新宿合計(夜)	420	560	675	701	675	658	710

* 池袋の炊出しと新宿の炊出しは昼夜同時刻に実施のため重複はあり得ない。

特記事項	昼はアントニオ猪木氏の炊き出し	昼中央教会炊き出し	山谷なぎさ寮受付		中央教会宿泊(1/3まで)	夜から朝にかけ初売り並びあり(50名規模以上)		中央教会など通常の炊き出し等再開
------	-----------------	-----------	----------	--	---------------	-------------------------	--	------------------

パトロール巡回路上生活者数同一場所推移

2005-2006越年期		2006-2007越年期		2007-2008越年期		2008-2009越年期	
中央公園	129	中央公園	141	中央公園	59	中央公園	124
西口地下通路	76	西口地下通路	91	西口地下通路	76	西口地下通路	93
地下広場	122	地下広場	113	地下広場	91	地下広場	84
北口	41	北口	33	北口	52	北口	48
西口	92	西口	69	西口	72	西口	68
東口	103	東口	99	東口	58	東口	86
計	563	計	546	計	408	計	503
中央公園を除く計	434	中央公園を除く計	405	中央公園を除く計	349	中央公園を除く計	379

パトロールコースは例年ほぼ同様。

時間帯も同一時間帯、20時~24時の時間帯を採用。

越年期間中最も多い数字をあてはめた。

前年同比約23%増

前年同比約9%増

2009/2月 新宿区内概数調査 (2/4-8同一コース、同一時間で実施)

高田馬場	92	西口地下通路	106		
		西口地下広場	112		
中央公園	81	西口地上	70		
都庁下	34	ガード下	1		
		駅東口	18		
北口(新大久保方面)	48	駅南口	6		
東口(歌舞伎町方面)	64	甲州街道	16	全計	
計	319	駅周辺部	329	648	
					駅周辺部で若干の重複が考えられる。
					高田馬場、新宿主要地域のみで推定値
					北口東口の推定重複
					-50
					598

新宿連絡会

2008年11月～2009年1月会計報告

多くの方々のご協力で今期からは借金生活からようやく脱却できました。また越年期の大きな出費を賄う事もできました。本当にありがとうございました。新宿連絡会はすべて民間のご支援で運営されています。集まったお金はすべて仲間のために使い切ります。引き続きのご協力宜しくお願いします。

収入)		支出)	
炊出部門寄付	273,631	炊出し事業費	235,635
活動部門寄付	0	越年越冬事業費	1,418,327
越年越冬部門寄付	1,713,408	池袋支援費	120,000
その他寄付	2,360,697	事務用品費	18,496
		旅費	29,210
		通信費	152,750
		消耗品費	29,130
		車両費	40,733
		事務所費	800,000
		外注費	8,000
		研修費	232,134
		共同墓地事業費	50,000
		支払手数料	13,436
		諸雑費	1,520
		返済金	942,661
		次期繰越金	255,704
合計)	4,347,736	合計)	4,347,736

衣類、物品の寄付 ありがとうございます。



第15次新宿越年越冬への衣類等の寄付は、今期は本当に多くの協力を頂きました。おかげさまで多くの仲間がこの冬は防寒着、毛布類には困る事なく、また多くの支えがある事が実感でき、生きる勇気を与えられました。

冬物衣類の寄付は1月末で閉め切りました。今後の衣類の寄付は下着類、靴下類、Tシャツなど上着、ズボン、春秋ものの薄手の上着類を中心に募集が3月15日より募集を再開する予定です。また、引き続きお米、お米券、テレホンカード(使用可能なもの)、はがき、切手類なども募集をしていきます。今後とも路上の仲間がこの街で生き、そしてこの街から羽ばたくための様々なご支援を宜しくお願い致します。

不明な点はどうぞ、お電話、メール等でお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティア募集中!

新宿炊出し (準備・片付け)
 毎週日曜 午後6時より7時半
 ところ 新宿中央公園ポケットパーク

池袋炊出し (準備・片付け)
 第2、第4土曜 午後3時より5時
 ところ 南池袋公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半
 ところ 新宿中央公園ポケットパーク

第2日曜 午前10時より正午
 ところ 戸山公園

パトロール (夜回り)
 新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～
 戸山公園 毎水曜 午後6時～

●活動カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.gambanpo.net/>「ガンバNPO」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけ、そこから寄付ご協力のお願いに入ってください。)からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

(平日9時～5時で受取が可能です) お願いします。